

新潟県鶏ふん利活用推進協議会（新潟県新潟市ほか）

R6補正
R7当初

27

背景・課題

県内には養鶏場が多く、鶏ふん堆肥が多く生産され、耕種農家が利用しやすい高窒素でペレット状の堆肥も製造されているが、認知度が低く利用は進んでいない。

一方、農業資材の高騰により稻作農家のコスト削減が急務となっている。

そこで、高窒素鶏ふんペレット堆肥を水稻栽培の基肥として利用し、肥料費の削減、化学肥料使用量の低減を目指した栽培試験を行い、高窒素鶏ふんペレット基肥利用栽培体系の確立・普及を目指す。

成果目標

○高窒素鶏ふんペレット堆肥の基肥利用栽培体系の確立と利用拡大

(現状 (R6) 73ha→目標 (R12) 150ha)

○ブロードキャスターによる高窒素鶏ふんペレットの散布作業の効率化による散布面積の拡大

(現状 (R6) 73ha→目標 (R12) 150ha)

主な取組内容

○県内12カ所・5品種で高窒素鶏ふんペレット堆肥を基肥に使用した検証ほ場を設置し、堆肥の速効性窒素成分量を慣行栽培の窒素施用量に合わせることにより、慣行栽培と同程度の生育を目指す。

○ブロードキャスターで高窒素鶏ふんペレット堆肥を散布することで省力的かつ短時間の散布を目指す。



県内12カ所で高窒素鶏ふんペレットを基肥に使用した検証ほ場を設置し、慣行栽培との生育・収量・品質を比較した。



高窒素鶏ふんペレットをブロードキャスターで散布することにより、省力的に短時間で散布することができた。



高窒素鶏ふんペレット検証ほ場の現地検討会を開催し、耕種概要や生育状況について、検証ほ場を見ながら参加者間で検討及び意見交換を行った。



鶏ふん利活用シンポジウムを開催し、高窒素鶏ふんの特性や耕畜連携に向けた活用のポイント、鶏ふんの利用拡大に向けた取組等について周知した。

今後の取組

各地の検証結果を実績検討会で発表・検討し、栽培方法のマニュアルを修正して関係者や取組希望者と共有し、高窒素鶏ふんペレット肥料の利用拡大を図る。

また、高窒素鶏ふん堆肥の利用拡大には、本栽培体系に対する消費者のイメージ向上が必要であることから、消費者向けの研修会等を開催する。

問い合わせ先

新潟県鶏ふん利活用推進協議会（事務局：新潟県農業経営・就農支援センター）

〒950-0965 新潟県新潟市新光町15番地2

TEL：025-281-3480 Mail：ikusei@niigata-nourin.jp

背景・課題

阿賀野市は約40年前から笹神地区を中心に有機米が栽培されているが、環境への配慮や健康志向の高まりを背景に近年、有機米の需要が高まっていることから、栽培を市全域に広げ、農家所得の向上を目指している。

課題は雑草対策であることから、スマート農機を活用し、省力化に取り組んでいる。

成果目標

○有機農業の取組面積

(R6)25ha →(R11)50ha

○温室効果ガス削減生産方式取組面積

(R6)0ha →(R11)50ha



阿賀野市

構成員

阿賀野市、JA新潟かがやき、新潟県、

阿賀野市オーガニック推進協議会

(阿賀野市、ささかみ米産直部会、笹神複合営農受託組合、阿賀野市農業委員会、株式会社ささかみ、エコファームささかみ株式会社、株式会社あがの、JA新潟かがやき、NPO食農ネットささかみ)

品目

水稻

主な取組内容

○生産：スマート農機（乗用除草機、自動抑草ロボット等）を含む除草技術の向上、生産者の育成、技術指導、有機野菜等の実証栽培。

○流通：学校給食への有機農産物の試験導入、温室効果ガス削減見える化の試行。

○消費：環境配慮型農業のブランドづくり（今後実施予定）



乗用除草機を導入して効果検証。

スマート農業による省力化の恩恵を多くの生産者が享受。労力の削減に貢献。



栽培技術の向上、新規生産者の育成のために、研修・勉強会を実施。



地元の道の駅で温室効果ガス削減見える化「みえるらべる」が貼られた農作物を販売。

今後の取組

有機米の産地化に向けて、生産面ではスマート農業を活用した栽培技術の向上及び普及に取組む。また、消費面では、消費者の理解醸成のために、学校給食への有機農産物の供給拡大、環境に配慮した農業のブランドづくりに取り組む。

問い合わせ先

新潟県阿賀野市産業建設部農林課

新潟県阿賀野市岡山町10番15号

TEL : 0250-61-2478 Mail : norin@city.agano.niigata.jp

富山県（富山県砺波市）

R6補正
R7当初

29

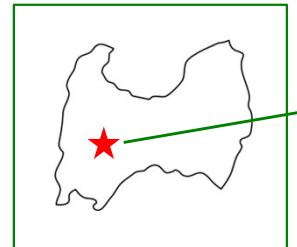
背景・課題

本県のチューリップ球根栽培では、担い手の減少や肥料価格の高騰等、生産を取り巻く環境は非常に厳しく、単収の向上や生産コストの低減、作業の大幅な省力化が求められている。特に植付けや収穫作業は手作業が中心であるため、機械化が求められている。また、チューリップ球根の施肥体系は、球根専用複合肥料を植付け前と12月に施用するが、化学肥料のコストが高騰しており、堆肥など有機質肥料による低成本化と環境負荷軽減対策が求められている。

成果目標

目標年度：令和12年度

- 省力機械の活用による植付け・収穫に要する作業時間の削減に取り組む面積（R6:0.6ha→R12:5ha）
- 堆肥の活用による化学肥料の削減に取り組む面積（R6:0.6ha→R12:5ha）



砺波市

構成員

富山県農業技術課広域普及指導センター、砺波農林振興センター、富山県園芸研究所、富山県花卉球根農業協同組合、チューリップ生産農業者

品目

チューリップ球根

主な取組内容

- ネット栽培機械の活用による植付け・収穫作業にかかる作業時間の削減効果を検証する。
- 鶏糞堆肥の活用による化学肥料使用量の削減及び収量への影響を検証する。



ネット栽培のイメージ図



使用したネットの写真
ネットを球根の上下に設置して栽培



上：植付けの様子、下：収穫の様子

今後の取組

ネット栽培機械の活用により、植付けや掘取り等の外作業での削減効果が確認された。一方、鶏糞堆肥については、基肥に用いることで慣行栽培と同等程度の収量が得られた。これらの取組の結果を踏まえ、既存の「栽培マニュアル」を改訂し、県内のグリーンな栽培体系の普及を図る。

問い合わせ先

富山県農林水産部農業技術課広域普及指導センター
〒939-8153 富山県富山市吉岡1124-1
TEL: 076-429-5042

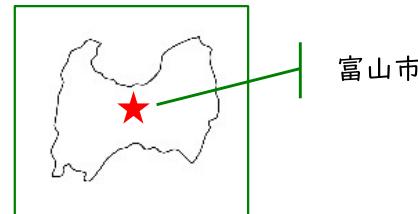
富山市早生樹活用協議会（富山県富山市）

R6補正
R7当初

30

背景・課題

荒廃農地等を活用して、早生樹等（そうせいじゅ：早く成長する樹木、ヤナギ類）の栽培実証を行うことで、荒廃農地等の解消など、地域課題の解決を目指す。その成果を各地域に展開することで、中山間地域での地域循環共生圏の構築につなげる。



構成員

富山市、（株）富山環境整備、
富山県、富山森林組合

品目

-

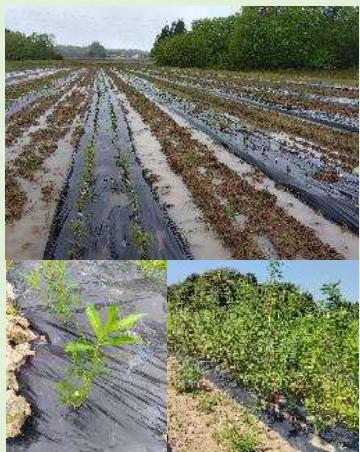
成果目標

目標年度：令和8年度

- 耕作放棄地においてヤナギ類の栽培から収穫までを行い、実証作物の単収10トン/1ha以上を目指す。
- 収穫したヤナギ類を燃料として受け入れる木質バイオマス発電施設を1社以上確保し、燃焼実証を行う。
- 富山県内におけるヤナギ類5種類から各種の優良系統を選抜する。

主な取組内容

- 他県で優良系統として選抜済みのオノエヤナギを基準として、富山県内で採取・選抜したヤナギ類の優良系統が、本地域の荒廃農地等で植栽・生育・収量の確保や木質バイオマスの燃料原料としての生産性が確保可能か検討。
- ヤナギ類が木質バイオマス燃料として、木質バイオマス発電施設での利用の可能性を検討するため燃焼実証を実施。
- 検討会を開催（4回/年）し、栽培実証や燃焼実証の成果をとりまとめ、今後の横展開の方法等を検討。



圃場に植栽されたヤナギ



サトウキビ用
ケーンハーベスターを
使用しての収穫
(ヤナギ類2年生)

収穫したヤナギは、
自然乾燥後に燃焼試験を
実施。



今後の取組

選抜した多収量の優良品種を、収穫跡地に植栽する。また、当年度の収穫は2年生のヤナギ類を対象に行ったが、次年度は3年生を対象とする。さらに、新たに植替え作業の省略と単収増が見込める萌芽更新に取り組む。

問い合わせ先

富山市早生樹活用協議会（事務局：富山市農林水産部森林政策課）
〒930-8510 富山県富山市新桜町7番38号
TEL：076-443-2019 Mail：sinrinseisaku@city.toyama.lg.jp

羽咋市（石川県羽咋市）

R6補正
R7当初

31

背景・課題

羽咋市においては、水稻生産が盛んで、自然栽培米や有機栽培米、能登米（化学肥料・農薬3割または5割削減）などの環境保全に資する農業を推進しているが、生産された農作物を、どのように販売していくかが課題。また、その時に有機農産物としての付加価値を消費者や販売事業者に認識してもらう必要がある。

成果目標

※水稻・野菜を対象

○栽培面積

(R4) 16.9ha → (R6) 20.8ha → (R11) 23.9ha

○販売数量

(R4) 44,101kg → (R6) 41,650kg → (R11) 64,861kg

○取組者数

(R4) 18人 → (R6) 19人 → (R11) 21人



羽咋市

構成員

羽咋市、JAはくい、のと里山自然栽培部会、羽咋まちづくり(株)

品目

水稻

主な取組内容

- 生産：有機農業に関するパンフレットを作成し、就農促進を図る。
- 流通：有機栽培農産物の加工品開発及び試作品でのマーケティング。
- 消費：有機栽培農産物の消費に関するアンケートの実施。

有機栽培農産物（水稻）及びその加工品の販路拡大に向けたイベントの開催。

県内飲食店と連携し、有機農産物を利用した料理を提供するイベントの開催。

子どもたちに、有機栽培農産物への興味・関心をもつてもらうため、学校給食での有機農産物の提供。



JAはくいと連携し、自然栽培に関するパンフレットを作成。



羽咋まちづくり(株)と連携し、自然栽培米加工品の米焼酎のラベルを作成。

今後の取組

今後、有機農業を更に推進していくためには、生産された有機農産物の販路確保や、付加価値を消費者や販売事業者にアピールしていく必要がある。今後は、有機農産物の安定生産の実現、トキをシンボルとした有機農産物のブランド化を県内市町と連携して推進していく。

問い合わせ先

石川県羽咋市農林水産課

石川県羽咋市旭町ア200

TEL: 0767-22-1116 Mail: nourin@city.hakui.lg.jp

越前市有機農業産地づくり推進協議会（福井県越前市）

R6補正
R7当初

32

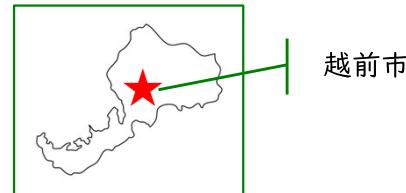
背景・課題

越前市は、県特別栽培を含めた有機農業による水稻の作付面積が、県全体の約4割を占める地域である。

一方、有機農業従事者の高齢化による担い手不足が深刻化しており、生産面では、有機農業新規参入者数の確保、既存取組者の面積拡大、流通面では、加工品を含む有機農産物の販路開拓、高付加価値化が課題となっている。

成果目標 ※有機水稻のみを対象

- 栽培面積(R4)109ha →(R6)124ha →(R10)170ha
- 販売数量(R4)239トン →(R6)297トン
→(R10)372トン
- 取組者数(R4)31人 →(R6)38人 →(R10)40人



構成員

福井県、越前市、

J A福井県、J A越前たけふ

品目

水稻



主な取組内容

- 生産：有機米の栽培面積拡大に向けて、先進農業法人が有機農業の新規参入者に技術指導を行いながら、経験則であった栽培技術の言語化。スマート化など新技術の導入により、有機米づくり農業の作業負担軽減を図る。
- 流通：コウノトリをシンボルとしたブランドをはじめ、各種6次化商品の開発支援。
- 消費：市内全小中学校の給食に「コウノトリ呼び戻す農法米」を提供。有機米など有機農産物等について、都市部においてマーケティング及び販路開拓を実施。



先進有機農業法人による新規取組者への水稻に係る技術指導を継続し、有機栽培面積の拡大を進めた。



コウノトリ呼び戻す農法米などの有機農産物の魅力を広く訴えるため、YouTubeでわかりやすく発信した。

今後の取組

引き続き規模拡大及び作業の効率化を進めるため、有機米の栽培技術マニュアルを横展開し、実証実験を行ったスマート技術についても本格運用を行う。

有機米の消費拡大に向けては、訴求力の高い地域における試験販売や学校給食への提供を続ける。

問い合わせ先

福井県越前市環境農林部農政課

福井県越前市府中一丁目13-7

TEL:0778-22-3009 Mail : nousei@city.echizen.lg.jp